

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年10月15日

コロナパンデミック中の禁煙治療：イギリスにおける調査

【松崎雑感】

タバコとニコチン依存症の専門誌に投稿された論文です。コロナパンデミック中喫煙が増えた人と減った人がいること、リモート禁煙治療が新たな武器として登場したというリーズナブルな主張のほかに、電子タバコショップの営業をやめさせという意見に対しては反対だという意見が表明されています（実は紙巻きタバコ販売規制は行われていないが）。シガレットから電子タバコ、加熱式タバコにスイッチすることがタバコ使用の害を減らす有効な手段だという「ハームリダクション」の考えに基づくのかもしれませんが、ニコチン依存が続くため、デュアルユースをもたらして、シガレット使用低下には結びつかないのですから、いかがなものかなと思います。

コロナパンデミック中の禁煙治療：イギリスにおける調査

Johnston E, Bains M, Hunter A, Langley T. **The impact of the COVID-19 pandemic on smoking, vaping and smoking cessation services in the UK: A qualitative study** [published online ahead of print, 2022 Oct 11]. *Nicotine Tob Res.* 2022;ntac227. doi:10.1093/ntr/ntac227

背景

コロナパンデミック中、禁煙する人々と再喫煙する人々が見られた。紙巻きタバコ、電子タバコ使用率の変化、禁煙治療、電子タバコ売り上げなどを調査した。

方法

禁煙外来担当者、タバコ対策担当者、タバコ製品使用者、電子タバコ小売店経営者に39項目の質問票調査を行った。インタビュー内容も記録した。

結果

調査項目 ①ロックダウンが禁煙にもたらした影響、②新型コロナが禁煙にもたらした影響、③パンデミックが電子タバコ使用者と小売店にもたらした影響、④パンデミックが禁煙治療にもたらした影響。

新型コロナ感染や重症化を懸念して禁煙をする者が増えた一方、ロックダウンの疲れとストレスによって再喫煙する人々も増えた。禁煙治療を対面でなくリモートで受ける仕組みができたため、それを活用して禁煙できる人々もいた。特に妊婦など感染弱者に多く見られた。禁煙治療専門家と電子タバコ使用者は、電子タバコショップを強制的に閉鎖させることに反対していた。電子タバコ入手に余計なバリアとなるためであるというのがその理由だった。

結論

新型コロナパンデミックは、タバコ使用を低下あるいは増加させる両方向の影響をもたらした。禁煙治療をリモートで行う環境が整えられたことは、望ましい帰結である。この調査は、様々な関係者から情報と意見を収集しており、ユニークなものとなっている。

【本文の結論の記述より】

…電子タバコショップを閉鎖せよという意見もあるが、電子タバコの方が紙巻きタバコ喫煙よりも安全とイギリス政府が考える「電子タバコスイッチ戦略」の障害となるため、適切な対策ではない。電子タバコショップは、コロナパンデミック下では「エッセンシャル」な部門である。…